

CS(学校運営協議会)だより

～やさしいところをひろげよう～



第4号(通算27号)
海老名市立東柏ヶ谷小学校
令和5年1月18日
委員長 芳賀 敬子
校長 小林 丈記

*CSとは、コミュニティ・スクール(Community School)の略称です。学校運営協議会を設置する学校のことをコミュニティ・スクールとよび、学校・家庭(保護者)・地域が一体となり、協働して子どもたちの成長を支えていく仕組みのことをいいます。本校の学校運営協議会は、今年度で4期目(7年目)を迎えます。

小さな「いのち」も大切に

学校はたくさんの「いのち」を大切にしています。最優先は、子どもたち一人ひとりの「いのち」です。学校は子どもたちの「いのち」と向き合っています。学年に応じて、「いのち」に関する授業を行い、多くの視点から考えられるよう指導・支援しています。

また、子どもたちは授業だけではなく、生活の中で「いのち」に向き合い、その大切さを考えることができる場面があります。今回は学校が大切にしている「いのち」の学びの場面を紹介します。

学校にビオトープがあることをご存知ですか。正門を入り左前方、百葉箱の隣にあります。このビオトープは、平成27年度に地域の方の協力のもと造られました。ビオトープでは、限りなく自然に近い状態で生命の環境を整えるために、コンクリートで固めるのではなく、防水ネットを用いています。金魚やメダカ、ドジョウ、ヤゴなどの生き物を飼育しています。春になるとカエルが卵を産み、多くのオタマジャクシが見られるようになりました。地域の方の協力で定期的に水替えをし、子どもたちが生き物の様子を観察しやすい状態を保っています。今年度も昨年9月に5丁目自治会から、柳下さん、真柳さん、浜崎さんのご協力のもと、作業を行いました。



作業前(左)と作業後(右)の様子。整備され、ビオトープの中の様子が観察しやすくなりました。

北棟と南棟の間には、防火水槽があり、そこにも小さな「いのち」があります。しかし、長年整備はされておらず、水槽内の状況を知る人は多くありませんでした。子どもたちが学習に活用し、防火水槽の実態を把握するために清掃を行いました。

清掃を行って分かったことは、「たくさんの生き物が生息し、『いのち』を繋いでいた」、「ペットボトルやプラスチックのごみが入っていた」、そして「水槽自体がとても深い」ということでした。子どもたちの学びのために有効活用しつつ、子どもたちが誤って転落しないようにするなどの事故防止をこれからも努める必要があると感じました。

また後日、5丁目の小池さんのご厚意で多くの金魚を譲っていただきました。たくさんの金魚が優雅に泳ぐ姿に子どもたちも興味津々。登下校の際や休み時間に観察する様子がたくさんみられます。小さな「いのち」をこれからも大事にしていきたいです。

